

平成31年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校 6 年生, 中学校 3 年生
- 3 実施教科 国語, 算数・数学, 英語(中学生)
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査(国語, 算数・数学, 英語)
知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成31年4月18日(木)
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国(国公立私立小学校)	19,600校	(実施率 99.3%...1,040,502人)
秋田県公立小学校	196校	(実施率100.0%.....6,960人)
全国(国公立私立中学校)	10,409校	(実施率 95.6%.....908,369人)
秋田県公立中学校	115校	(実施率100.0%..... 7,242人)

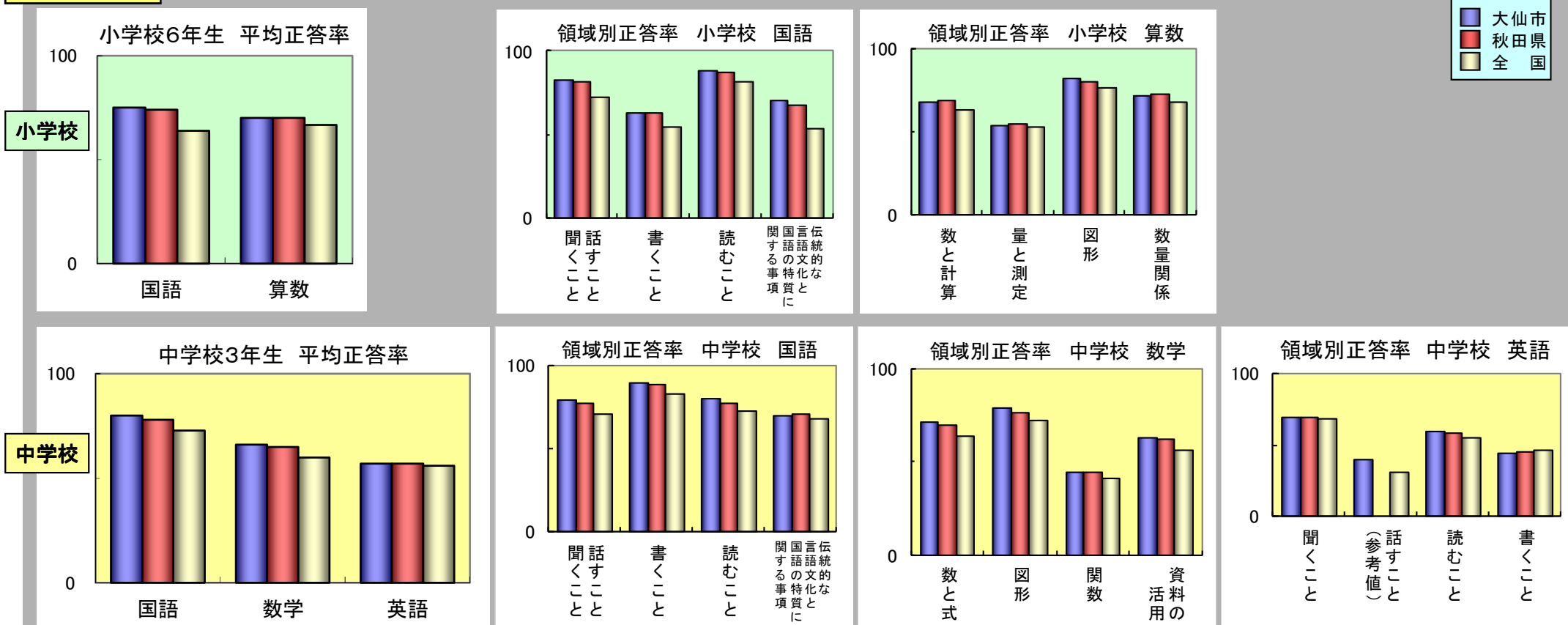
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

- 小学校では、全ての教科が全国の平均正答率を上回るとともに、本県の平均正答率との比較においても上回るかほぼ同程度であり良好な状況にある。中学校では、全ての教科が全国及び本県の平均正答率を上回っていることから、良好な状況にある。
- 教科別・領域別平均正答率の状況からみると、小学校国語と中学校英語においては、目的・場面・状況に応じて書くことに課題がある。小学校算数においては、図形以外の領域において本県の平均正答率を下回っている。言葉や数を用いて記述することに課題がある。

2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



*「話すこと」は、調査していない学校があるため県平均が非公開。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

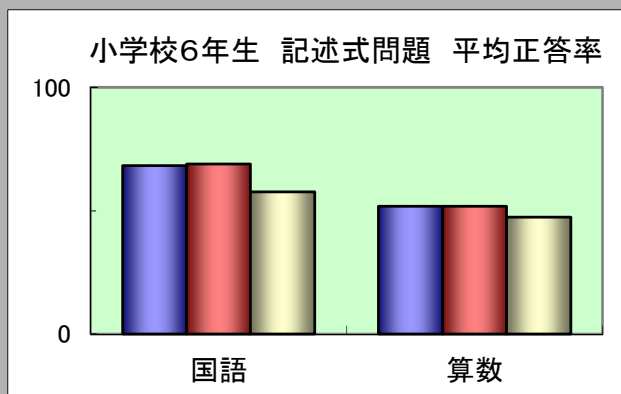
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

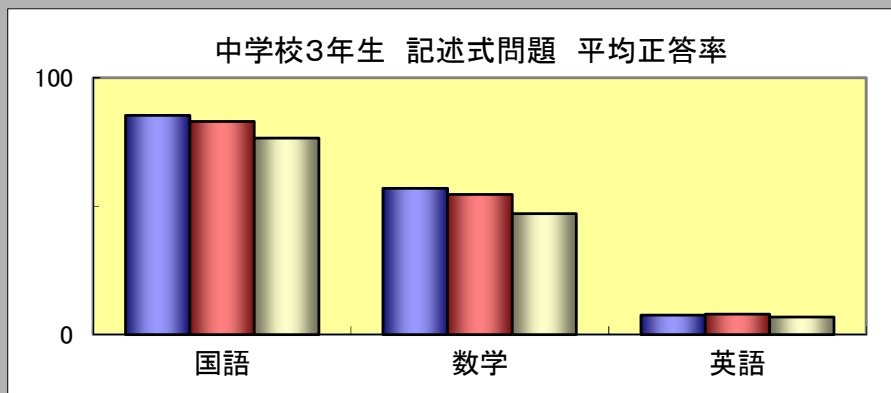
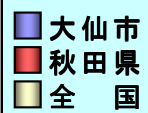
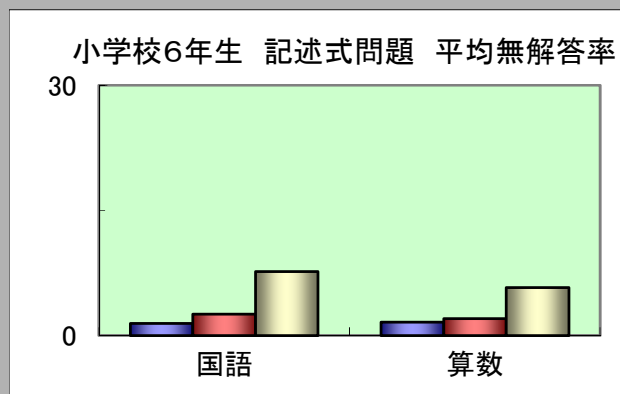
○記述式問題について小学校では、国語、算数、理科において平均正答率が本県の平均正答率と同程度であり、全国よりも上回っている。中学校では、国語と数学が全国や本県の平均正答率を上回っており、英語においては全国や本県と同程度である。また、無回答率については、小学校・中学校共に、全国や本県よりも低く、概ね良好な状況が維持されている。

○正答数の分布から、正答数が少なかった児童生徒の割合が相対的に少ない状況は維持されている。（P. 23～24参照）

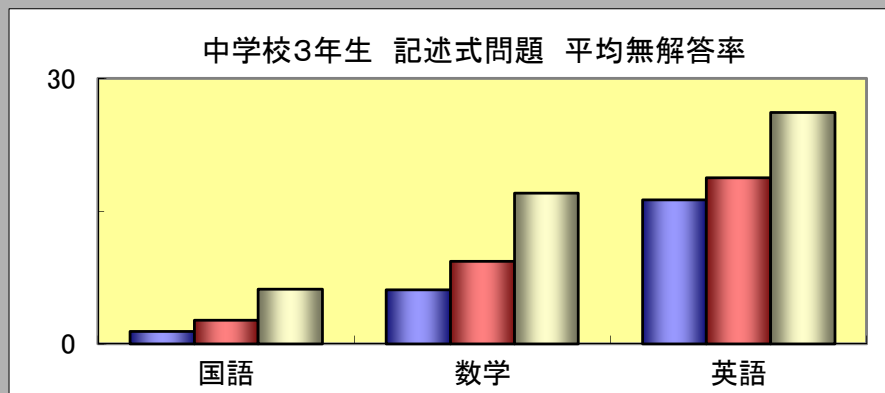
【資料2】記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、チームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表したり話し合ったりする活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠を基に説明したりする授業など、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や小・中連携による9年間を見通した指導、幼・小・中・高・大等との異校種間の連携・交流などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用や乗り入れ授業による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

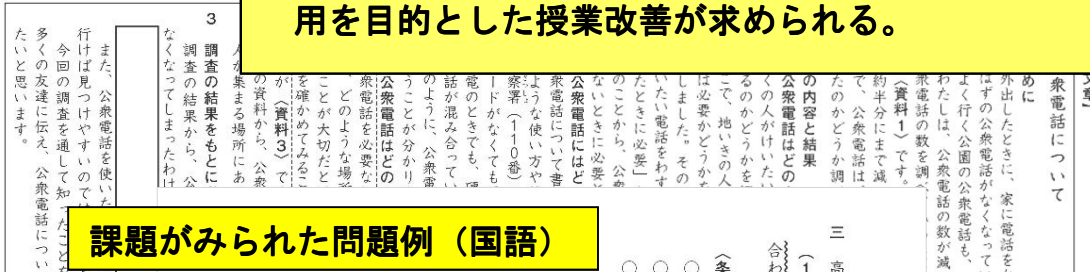
⑤ 各学校の取組を支援する国・県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

- 文部科学省・国立教育政策研究所等の研究指定校事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班の単元評価問題など、国や県の施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 学校支援活動などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」（あいさつ運動、環境問題、被災地支援・交流、いじめ撲滅、SNSルールづくり等）の実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
 - ・H30年度：学力向上推進委員会による小学校外国語活動指導案例（3年生～6年生）の作成
 - ・H31年度：学力向上推進委員会による教科別研修会、授業参観、指導案検討会
 - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催 ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問 など）
 - ・秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、県立高等学校、県立特別支援学校等との交流・連携
 - ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業、人権ユニバーサル事業の実施
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

●小学校においては、国語・算数・数学共に、目的や意図に応じて読んだり書いたり数量を見いだしたりすることに課題がある。中学校においては、国語の「言語についての知識・理解」、数学「数学的な技能」において、本県の平均正答率を下回る問題がある。英語においては、目的・場面・状況に応じて概要や要点を捉えることに課題がある。さらに「書くこと」において本県や全国の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を目的とした授業改善が求められる。



課題がみられた問題例 (国語)

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝
 ※県の平均正答率を下回った問題

■H31年度の調査結果に基づく主な課題

- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られる。
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・自分の考えをまとめる際には、調べて分かった事実が自分の考えの理由や事例として、ふさわしいかどうか吟味する場を設定する。また、事実と考えを区別し、文末表現に気を付けて書き分けるよう指導する。
- ・文章を書く様々な機会を捉えて、文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに、文の長さという点に注目して読み返し、接続語を使って複数の文に分けて書き直していく学習を設定する。書き直す前と後の文を比べ、伝えたいことが明確になったという実感をもつことができるように指導する。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校国語 1三】

県平均正答率 39.5%

- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校国語 1四(2)】

県平均正答率 63.0%

- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。

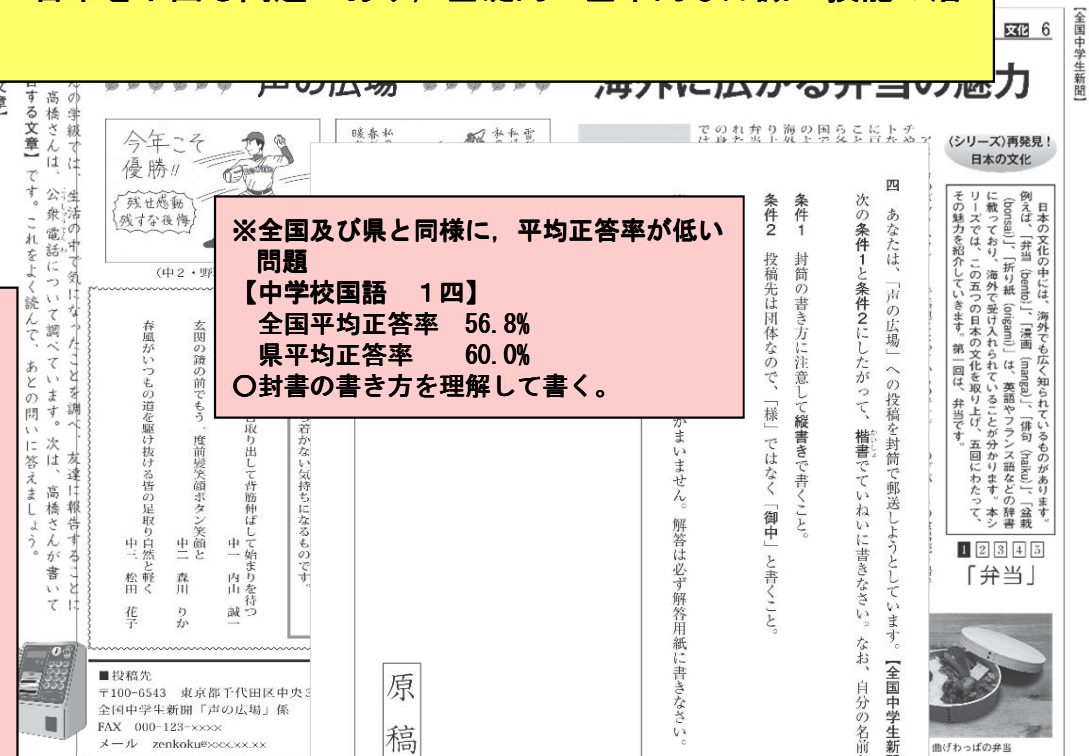
※全国及び県と同様に、平均正答率が低い問題

【中学校国語 1四】

全国平均正答率 56.8%

県平均正答率 60.0%

- 封書の書き方を理解して書く。



＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■H31年度の調査結果に基づく主な課題

- ・封書の書き方を理解して書くことに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・「社会生活に必要な手紙を書くこと。」などの言語活動を通じた学習や、総合的な学習の時間における学習との関連を図って指導する。また、小学校での学習を想起しながら、手紙を書く相手を具体的に定め、郵便等を通じて実際に手紙のやり取りを行いながら手紙の基本形式を学んでいけるようにする。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

1

下のような長方形の紙()があります。方眼紙は、1目もり1cmです。



※全国及び県の平均正答率を下回った問題
【小学校算数1(3)】
全国平均正答率 44.1%
県平均正答率 39.3%
○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。

(3)

求めようとしています。

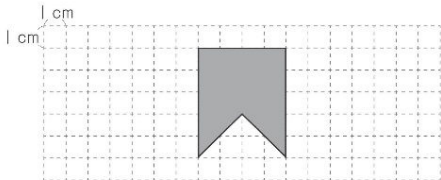


図1

ゆうたさんは、図1の形の面積を、次のように求めました。

【ゆうたさんの求め方】

=算数の課題と改善に向けて(小学校)=
※県の平均正答率を下回った問題

■H31年度の調査結果に基づく主な課題

- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述することが課題である。
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることが課題である。

□指導改善の主なポイント

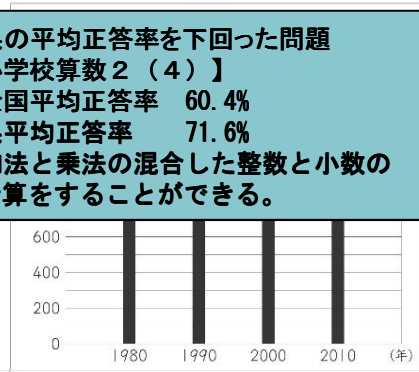
- ・図形の面積の求め方について、式を取り上げ、図形のどの部分の面積を求めているのかを問うなど、式と図を関連付けながら説明する学習活動の充実。
- ・式の左から渾に計算した場合と計算の順序についてのきまりを基に正しく計算した場合とを、具体的な場面と関連付けながら比較する学習活動の充実。

8×2は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

2

かいとさんたちは、水を大切に使用しているのを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているのかを調べています。かいとさんは、グラフ1を見つけました。

グラフ1



※県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数2(4)】

全国平均正答率 60.4%

県平均正答率 71.6%

○加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。

(4) さらに、かいとさんは、自分が家で水をどのくらい使っているのが気になり、洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、下の式を考えました。

課題がみられた問題例(算数・数学)

1

a と b が正の整数のとき、下のAからEまでの計算のうち、計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。正しいものをすべて選びなさい。

※県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学1】

全国平均正答率 62.4%

県平均正答率 65.0%

○数の集合と四則計算の可能性について理解している。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学5】

全国平均正答率 73.1%

県平均正答率 74.8%

○簡単な場合について、確率を求めることができる。

5

2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求めなさい。ただし、硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

=数学の課題と改善に向けて(中学校)=

※県の平均正答率を下回った問題

■H31年度の調査結果に基づく主な課題

- ・事象やその起こる確率についての理解が課題である。
- ・四則計算の結果の特徴を的確に捉えて、正の数と負の数の必要性和意味を理解することが課題である。

□指導改善の主なポイント

- ・樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を数え上げ、確率を求めることができる学習活動の充実。
- ・ a と b に代入する様々な正の数と、2数の四則計算 $a+b$, $a-b$, $a \times b$, $a \div b$ の結果をそれぞれ調べ、その結果の特徴を確認する学習活動の充実。

【かいとさんが考えた式】の、(ア)に入る数を書きましょう。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

※全国及び県の平均正答率を下回った問題【1(4)】

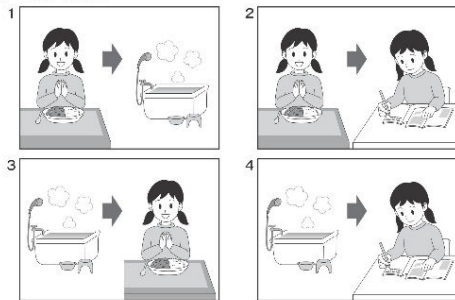
全国平均正答率 61.8%
県平均正答率 56.6%

○日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。

① (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(4) <家での会話>



※全国及び県の平均正答率を下回った問題【7】

全国平均正答率 32.8%
県平均正答率 31.6%

○まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる。

⑦ 中学生の一郎は、スマス先生 (Ms. Smith) と話しています。次の会話文中の () 内に入る最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.
Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.
Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!
Ichiro: OK.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study,

they got the answer to the question: "How smart are

課題がみられた問題例 (英語)

※全国及び県の平均正答率を下回った問題【9(1)①】

全国平均正答率 79.9%
県平均正答率 80.8%

○文の中で適切に接続詞を用いることができる。

⑨

(1) 次の①、②について、() 内に入れるのに最も適切な語を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

① Let's play tennis tomorrow () it's sunny.

1 and 2 if 3 but 4 or

② I saw a friend of mine at the station, () I had no time to talk to him.

1 if 2 or 3 but 4 because

※全国及び県の平均正答率を下回った問題【9(3)①】

全国平均正答率 53.5%
県平均正答率 52.8%

○与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

① 出身	Australia
② 住んでいる都市	Rome
③ ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

=英語の課題と改善に向けて～聞くこと・読むことについて～

■H31年度の調査結果に基づく主な課題

- ・時間の前後関係を把握し、情報を正確に聞き取ることに課題がある。
- ・社会的な話題を読み、書き手が最も伝えたいことを理解することに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・一日の行動や旅行などを聞き、before A, after B等の時間的な順番を表す句を正しくとらえ、時間の前後関係を理解する活動の充実。
- ・繰り返し用いられている語(句)や問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や文を選んだり、各段落の働きを理解する活動の充実。

=英語の課題と改善に向けて～書くことについて～

■H31年度の調査結果に基づく主な課題

- ・文と文などを論理的につなぐ働きをもつ接続詞の使い方を理解することに課題がある。
- ・動詞の欠落などに注意し、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・2つの文の意味を考えた上で、適切な接続詞を用いて1つの文を作る活動の充実。
- ・憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動の充実。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 児童生徒主体の授業づくりや、達成感・自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで学ぶ意欲が高まるとともに、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている。

2 結果

(1) 学習状況



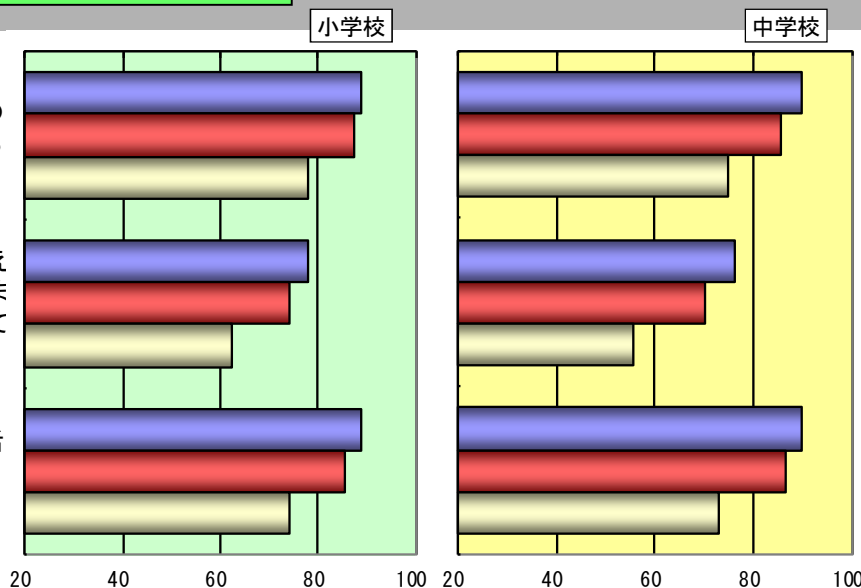
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料3】「主体的・対話的で深い学び」の経験

前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

友達（児童生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う



前年度までの授業について

- 課題解決に向けて、主体的に学ぶことに取り組んでいたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 考えを発表するときには、相手意識をもって、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、学習活動の質が高まってきている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

【資料4】家庭学習の様子

家で、自分で計画を立てて勉強をしている

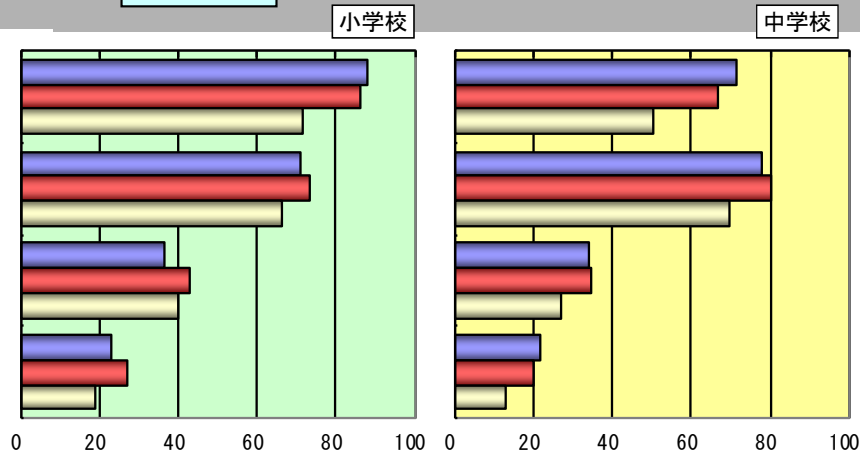
学校の授業時間以外での勉強時間
(平日、1日1時間以上)

家や図書館での読書の時間
(平日、1日30分以上)

新聞を読んでいる
(週1回以上)

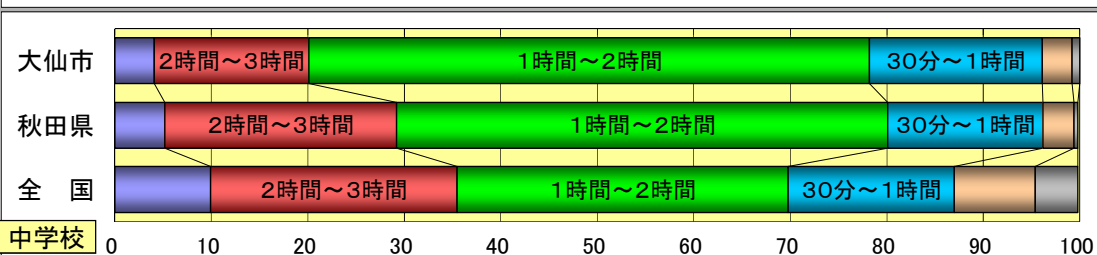
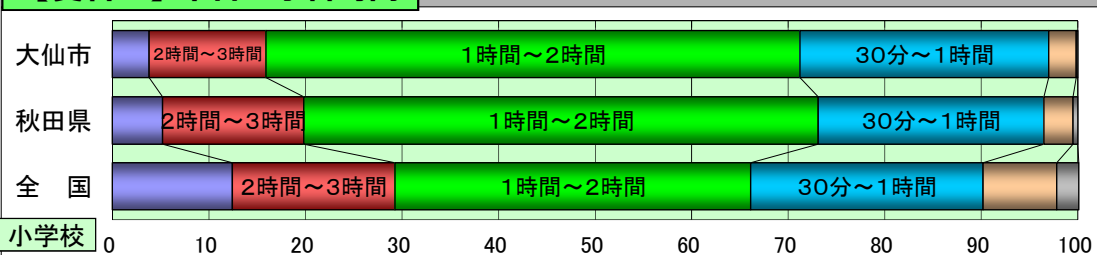


【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



- 小・中学生共に自ら学ぶ姿勢が身に付いている。
- 平日の学習時間が「1時間以上」の割合は、本県の平均と比べると低いが、「全くしない」の割合が少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子が分かる。
- 平日、1日30分以上の家や図書館での読書時間が本県や全国平均より下回っている。「全くしない」割合も1~2割おり、学校や家庭での読書時間の確保に工夫が必要である。
- 「新聞を読んでいる」について、全国や本県よりは高いが、「ほとんど、または、全く読まない」児童生徒も4割を超えており、学校に整備されている新聞を授業で活用する工夫が必要である。

【資料5】平日の学習時間



平日 3時間以上 2~3時間 1~2時間 30分~1時間 30分未満 全くしない

【資料6】平均学習時間 [単位:分]

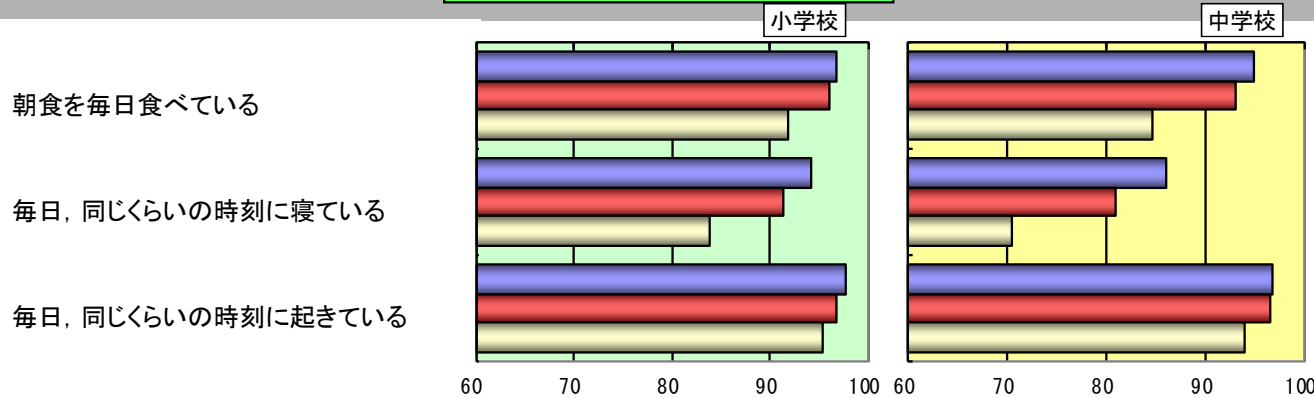
中学校	平日	小学校	平日
大仙市	120	大仙市	110
秋田県	130	秋田県	120
全国	120	全国	120

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (3) 生活習慣

【資料7】基本的な生活習慣等

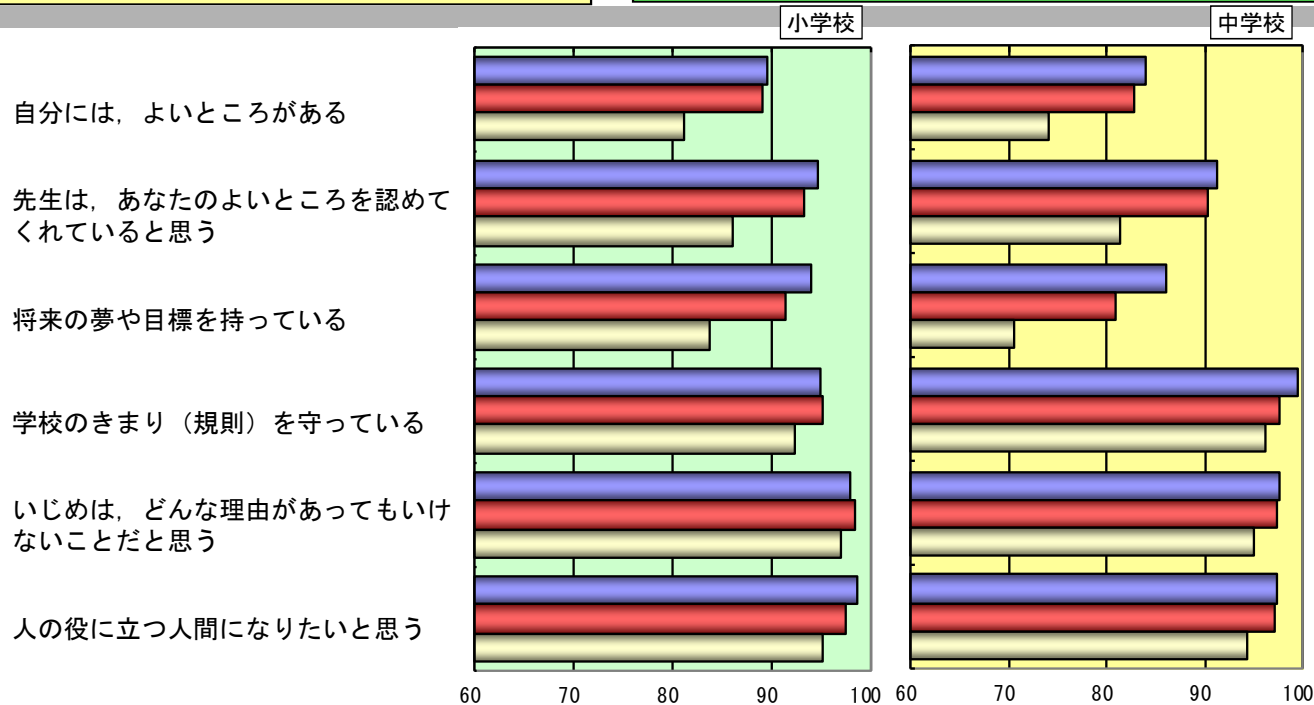
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



○早寝、早起き、朝ごはんに代表される生活習慣に関わる項目で、国や県の平均を上回る良好な状況にあり、家庭での子どもへの意識付けや教育がなされ、また、学校との連携が図られていることがうかがえる。

2 - (4) 自己肯定感, 規範意識等

【資料8】自己肯定感, 自己有用感, 将来への目標, 規範意識等



■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

○自己肯定感や自己有用感, 夢や目標を持つことに関する項目で、小・中学校共に良好な状況にある。互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標をもって学んでいることの成果と捉えられる。

○学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

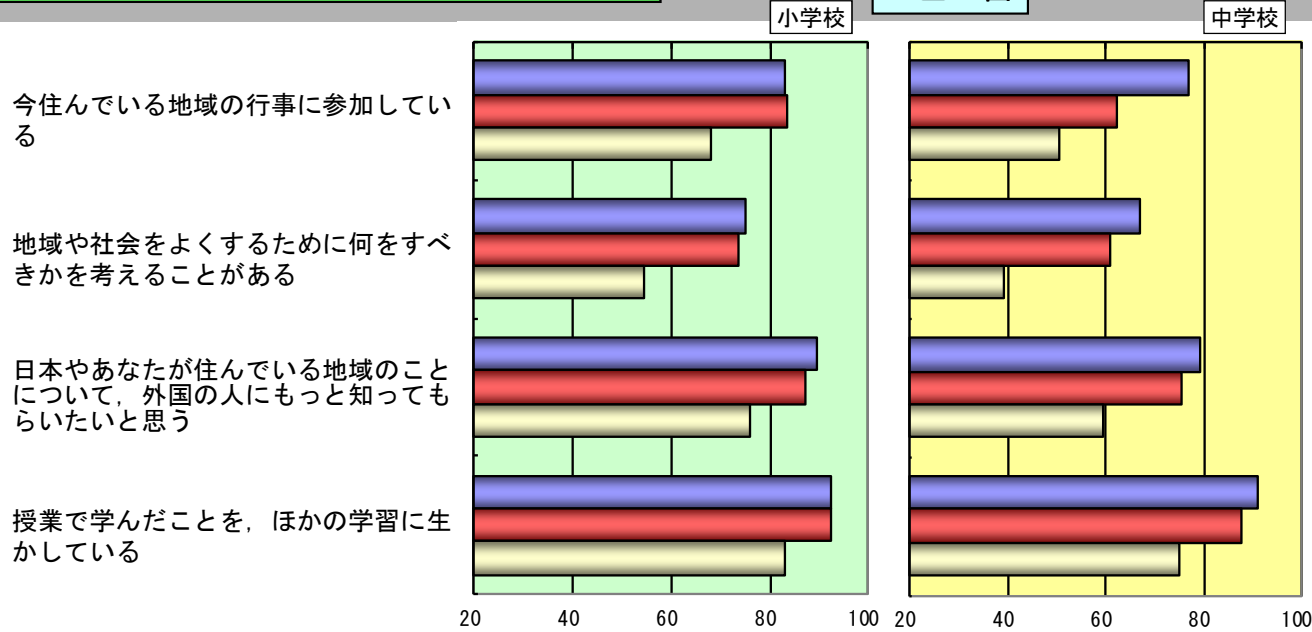
●自己肯定感や自己有用感, 夢や目標をもつことについては、年齢が上がるにつれて割合が下がる傾向にある。小中連携で個人のよさを認められるように引き継ぎを行っていききたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (5) 地域への関心

【資料9】地域や社会に関わる活動の状況等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】 児童生徒質問紙調査結果より



- 小・中学生共に「地域行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答している割合が国や県よりも高い。「大仙ふるさと博士育成」事業により地域とつながっている成果であると捉えている。
- 中学生サミットを通してエコ活動や被災地交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を進めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

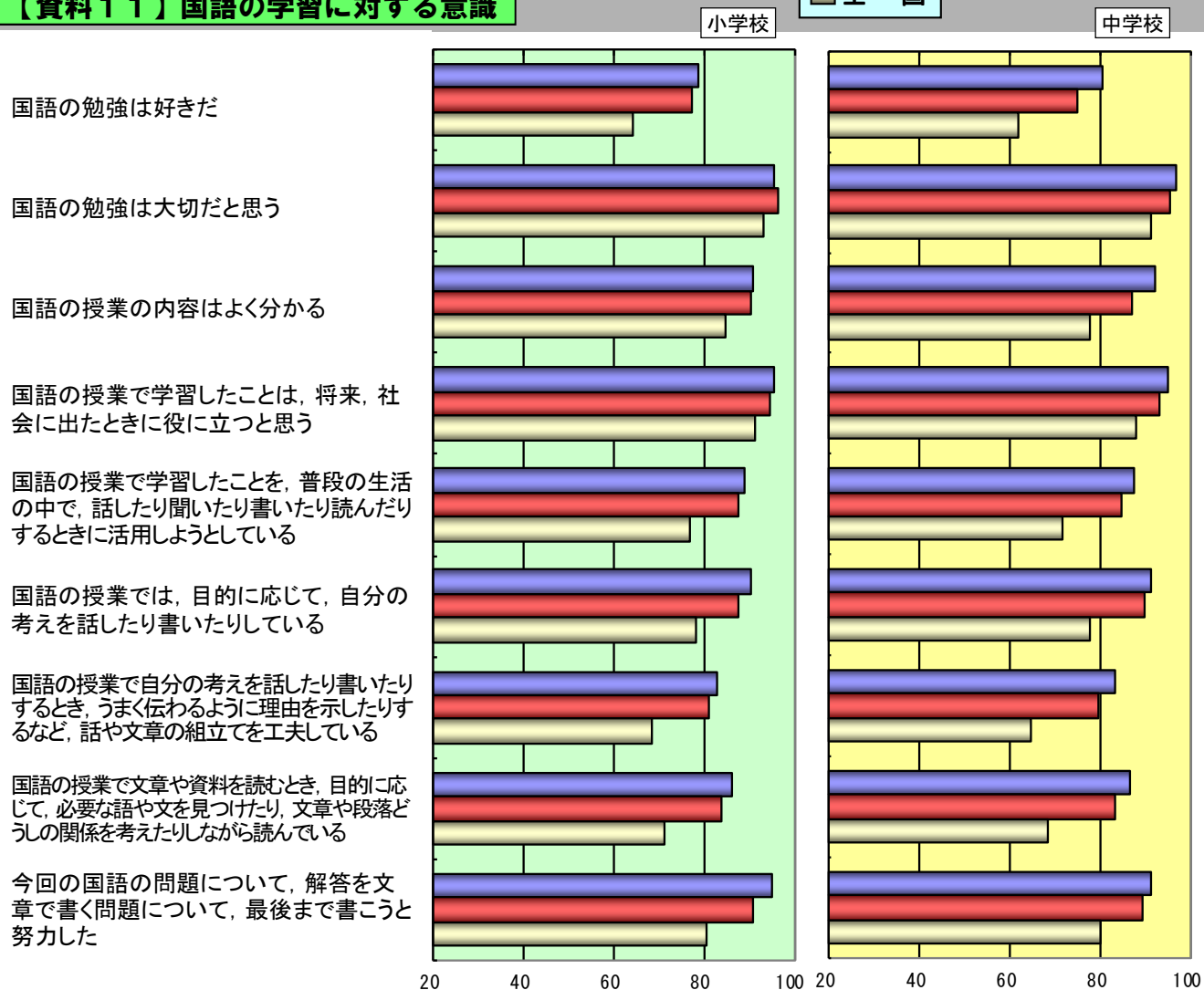
IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (7) 教科の学習に対する意識

【資料11】国語の学習に対する意識



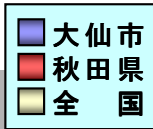
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の
市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



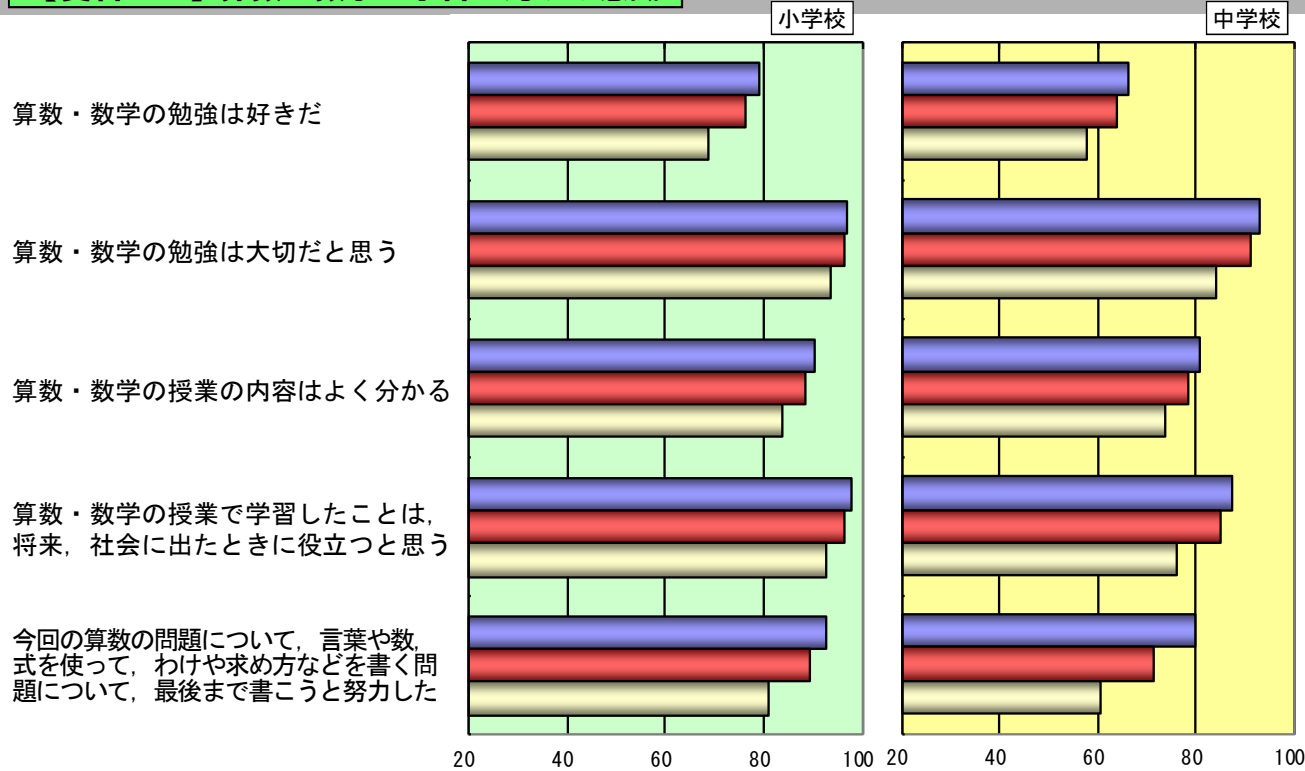
- 国語に関するほぼ全ての質問項目において、全国や本県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・「国語の勉強は大切だと思いますか」
 - ・「国語の授業の内容はよく分かりますか」
 - ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」
 - ・「国語の問題について、解答を文章で書く問題について、最後まで書こうと努力した」
- 主体的に取り組むこと、相手を意識すること、目的に応じて最後まで努力すること等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- 目的に応じて文章や資料の情報を収集したり、自分の考えを話したり書いたりする意識は高いものの、正答率に結び付いていない傾向がある。活用を意識した単元づくりや基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業改善を図っていきたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



【資料12】算数・数学の学習に対する意識



- 算数・数学に関する全ての質問項目において、国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・算数・数学の勉強は大切だと思う
 - ・もっと簡単に解く方法がないか考える
 - ・公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
 - ・問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている
- 主体的に取り組むこと、算数・数学を学ぶ価値、粘り強く取り組むこと等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- 全国や本県の割合と比べると高いが、「算数・数学が好き」の項目が、他の項目と比べ低くなっており、更なる工夫改善を図っていきたい。

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要

○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【自己有用感・規範意識等】〈相関がみられた主な項目〉

- 自分にはよいところがある。(小学校国語)
- ◎ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。(小学校国語・算数)

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎家の人と学校での出来事について話をする。(小学校国語・算数)

【学習習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 家で、自分で計画を立てて勉強している。(小学校国語、中学校国語・英語)
- ◎読書が好きである。(小学校国語・算数、中学校国語・英語)
- ◎家で、学校の授業の予習・復習をしている。

【家族や地域への関心】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。(中学校国語・数学・英語)

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

『国語』

- ◎国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。(小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語)
- ◎解答を文章で書く問題を、最後まで解答を書こうと努力した。(小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語)

『算数・数学』

- ◎算数・数学の勉強は好きだ。(小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語)
- ◎算数・数学の授業の内容はよく分かる。(小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語)
- ◎言葉や数、式を使って説明する問題を、最後まで解答を書こうと努力した。(小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語)

『英語』

- ◎英語の勉強は好きだ。(中学校国語・数学・英語)
- ◎英語の勉強は大切だと思う。(中学校国語・数学・英語)
- ◎英語の授業はよく分かる。(中学校国語・数学・英語)

『総合的な学習の時間』

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(中学校国語・数学・英語)

- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。(小学校国語、中学校国語・数学・英語)
- ◎(前年度まで受けた授業について)課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語)
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。(中学校国語・数学・英語)

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

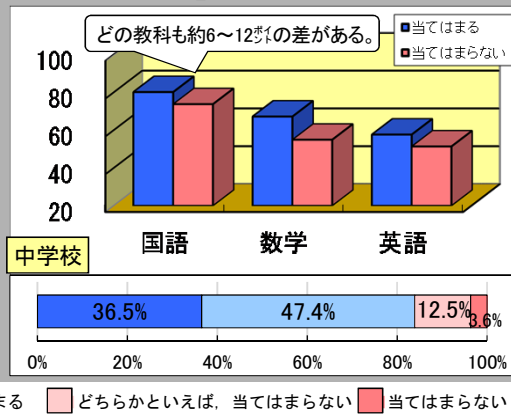
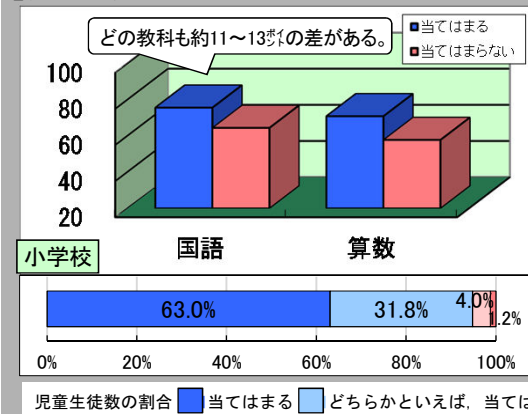
2 相関

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【自己有用感・規範意識等】

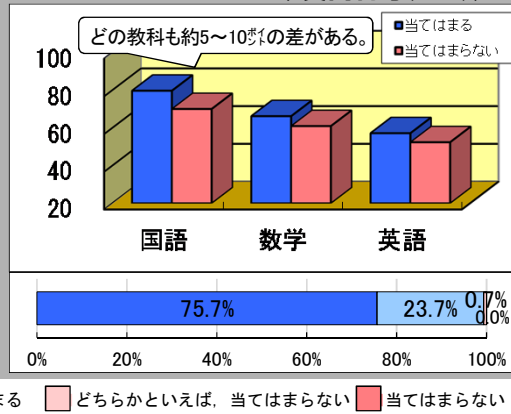
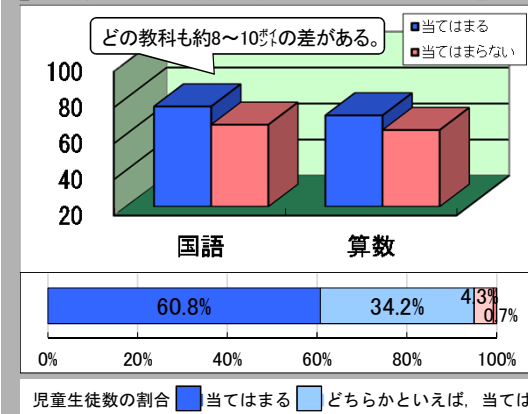
【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】

〈質問番号(6)〉



【学校のきまり(規則)を守っていますか】

〈質問番号(13)〉

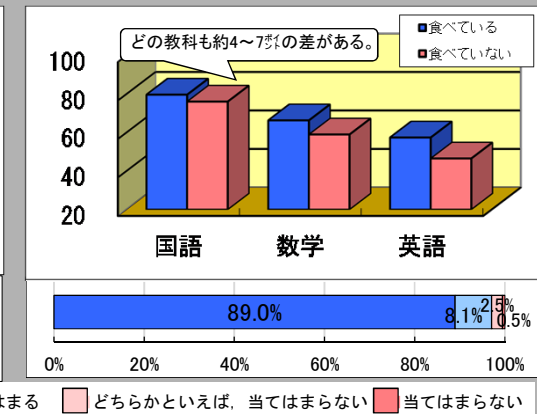
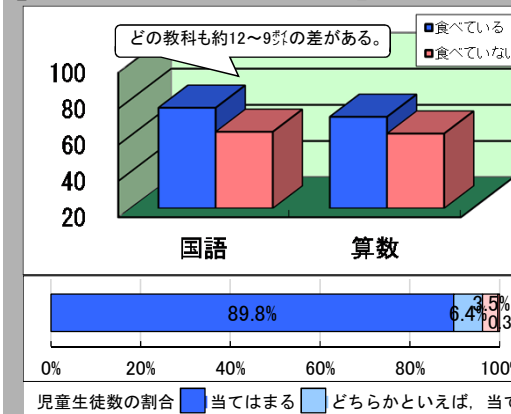


【生活習慣等】

【朝食を毎日食べていますか】

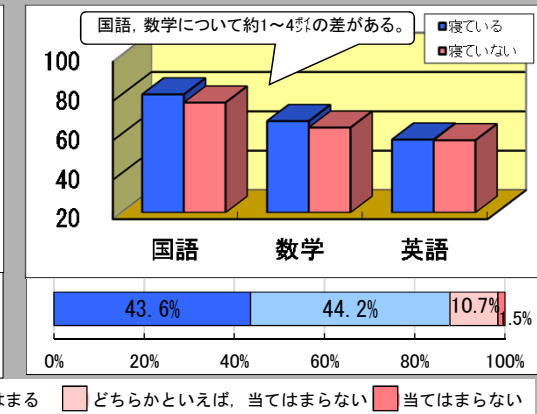
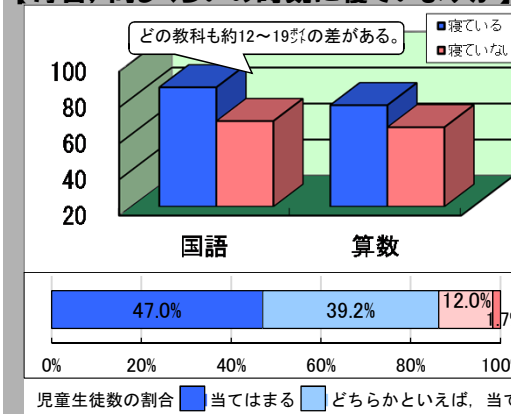
【資料13】

〈質問番号(7)〉



【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

〈質問番号(8)〉



○「先生は、自分のよいところを認めてくれる」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
「きまり(規則)を守っている」に良好な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

○「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小学生において相関が顕著である。

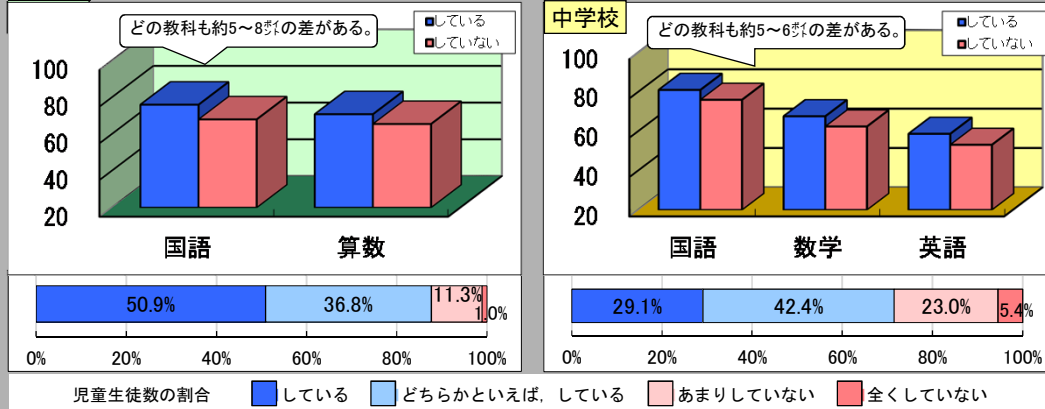
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【学習習慣等】

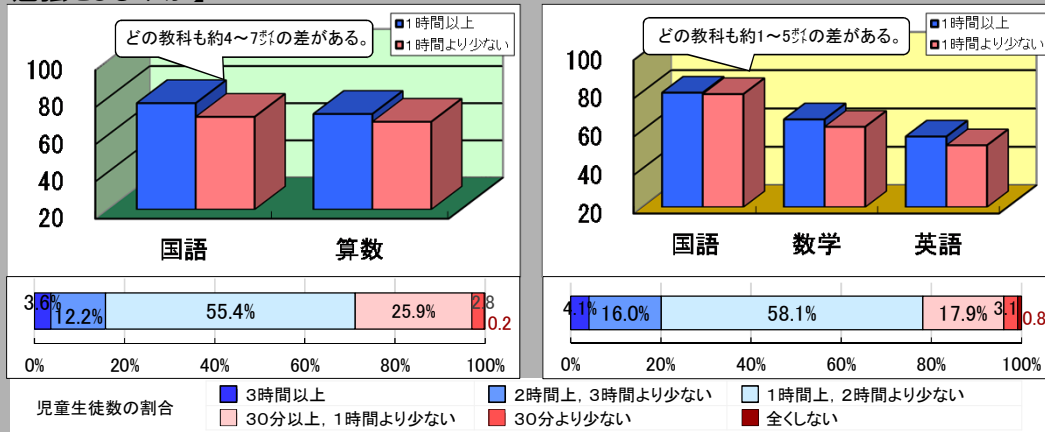
【家で自分で計画を立てて勉強をしていますか】

〈質問番号(17)〉



【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】

〈質問番号(18)〉



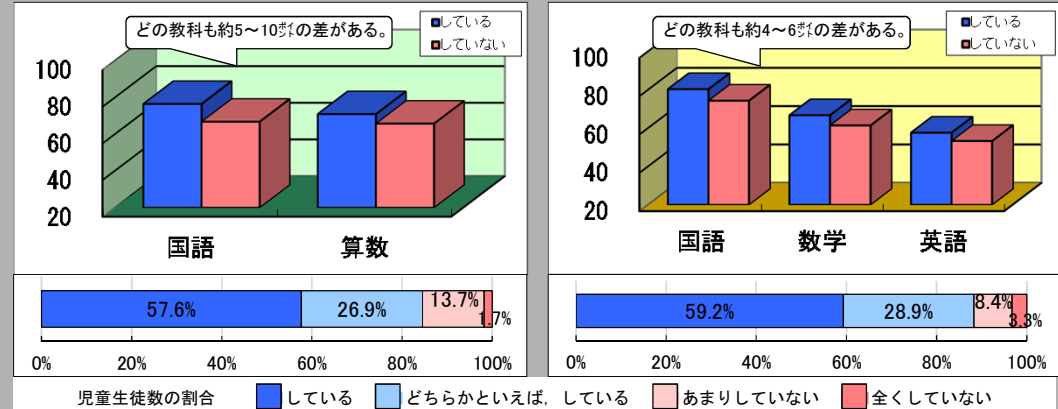
○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の授業時間に1日1時間以上勉強している」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【家族や地域社会への関心】

【資料14】

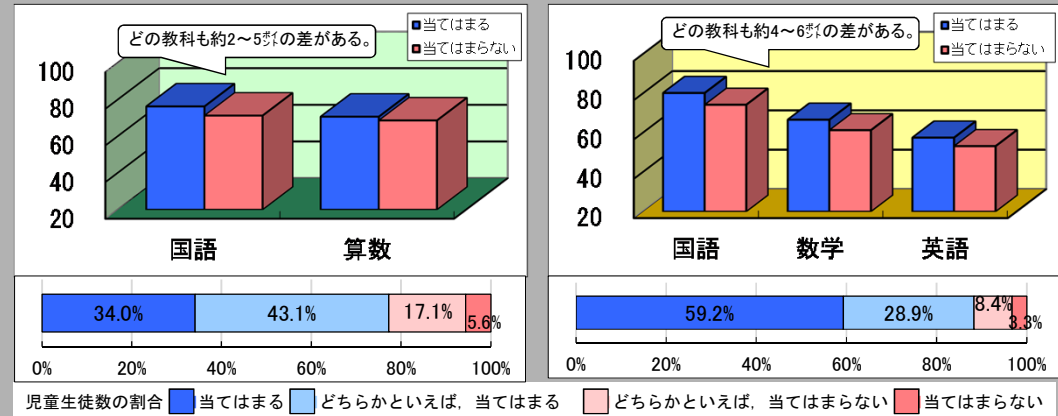
【家の人と学校での出来事について話をしますか】

〈質問番号(4)〉



【地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある】

〈質問番号(24)〉



○「家族と学校の出来事の話をする」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

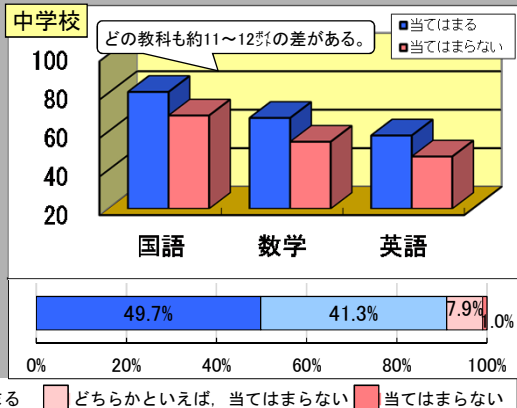
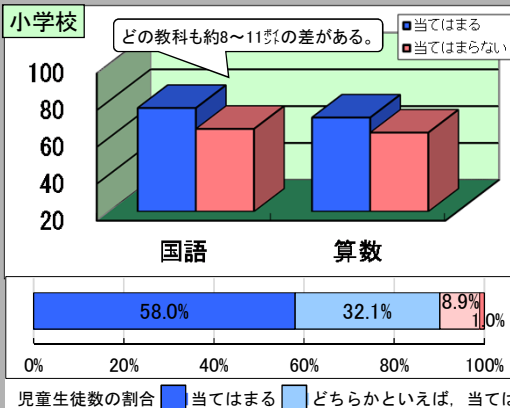
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

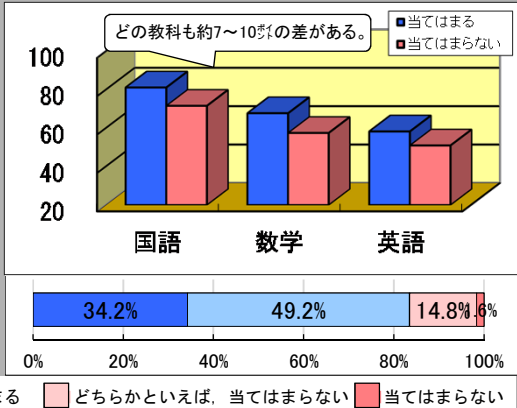
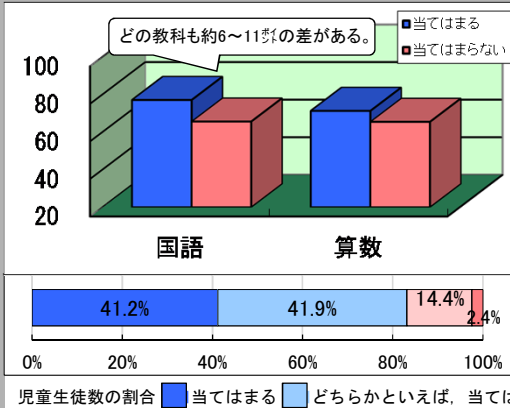
【調査問題への取組】

〈国語〉

【国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか】
 〈質問番号(小-42, 中-45)〉



【国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか】
 〈質問番号(小-43, 中-46)〉

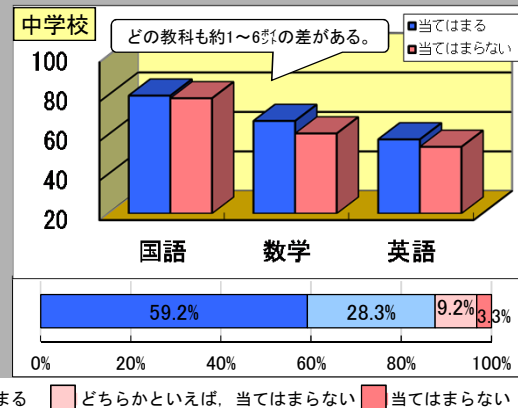
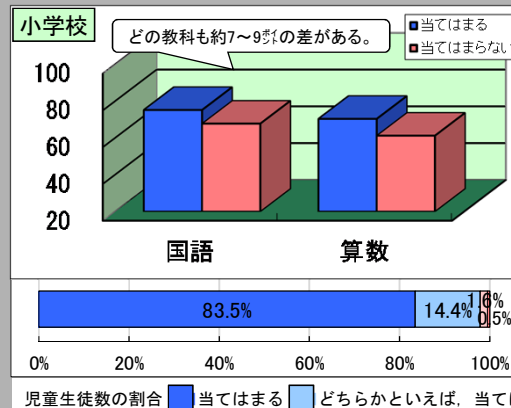


○「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

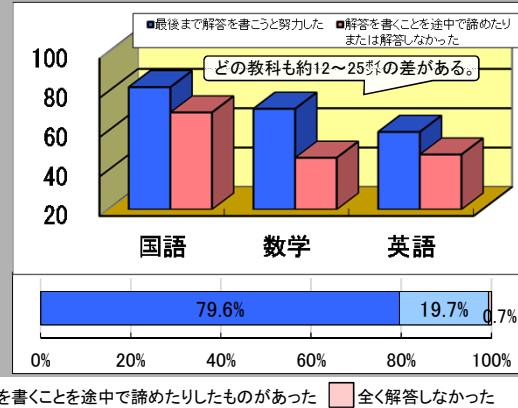
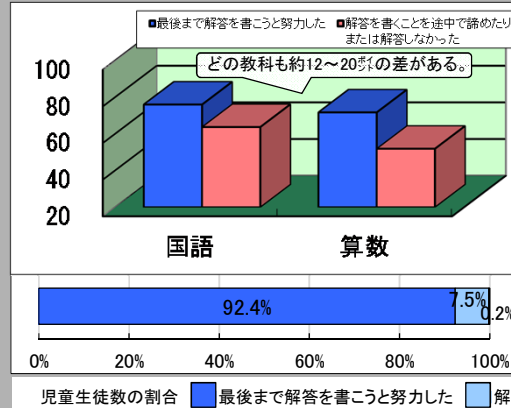
〈算数・数学〉

【資料15】

【算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ】
 〈質問番号(小-49, 中-52)〉



【算数・数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。】
 〈質問番号(小-56, 中-53)〉



○「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」「算数・数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。問題解決への取組姿勢が、他の教科にも通じることがうかがえる。

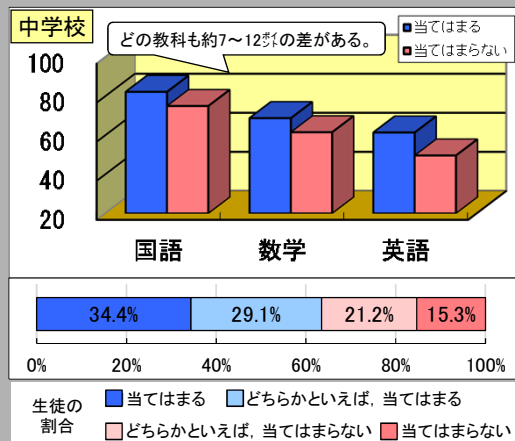
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

〈 英語 〉 (中学校のみの質問内容)

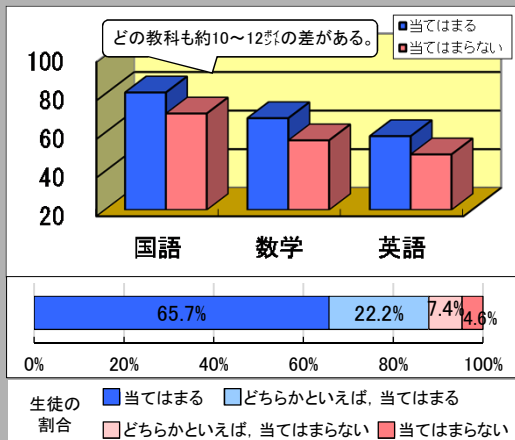
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【資料17】

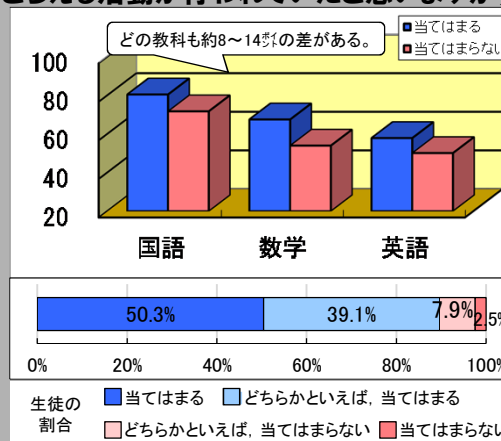
【英語の勉強は好きですか】



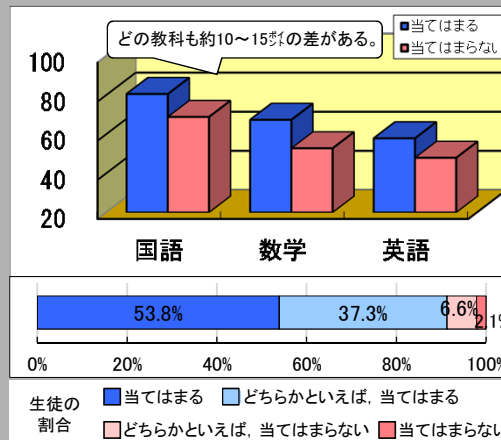
【英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか】



【過去に受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか】



【過去に受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか】



○「英語の勉強が好きである」「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていた」「英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われていた」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。英語の勉強への取組姿勢が、他の教科にも通じることがうかがえる。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

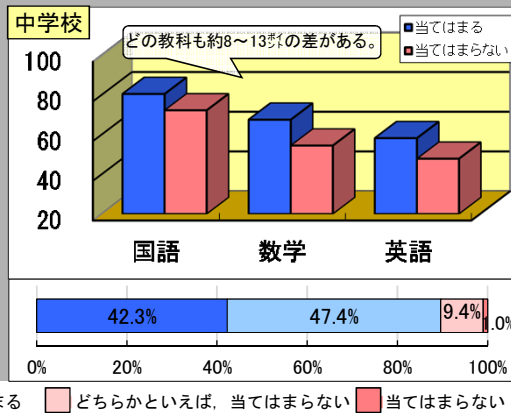
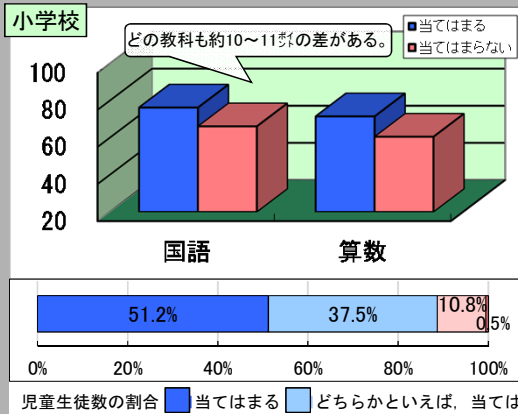
【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない＋全くあてはまらない）の比較】

【主体的・対話的で深い学び】

【資料16】

【課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか】

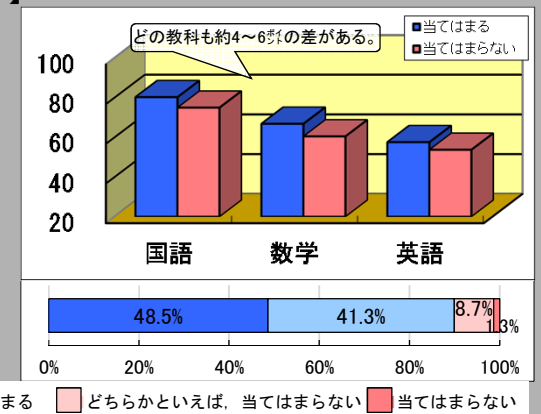
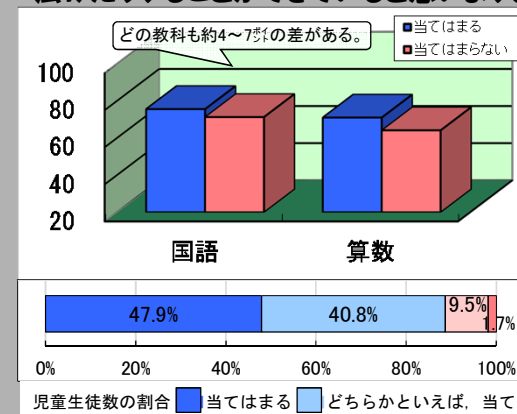
〈質問番号(小-35, 中-37)〉



【友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、

広げたりすることができていると思いますか】

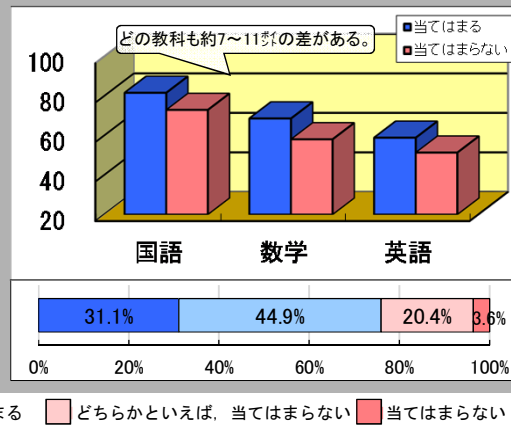
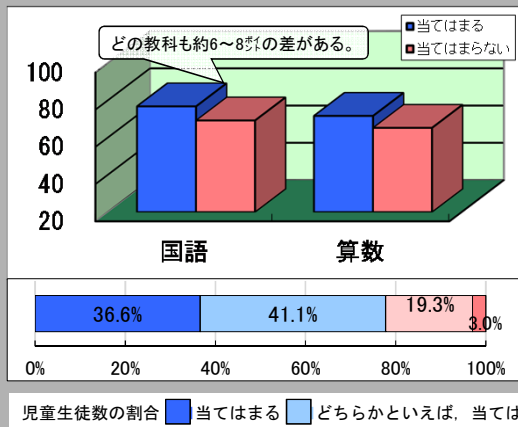
〈質問番号(小-29, 中-32)〉



【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、

工夫して発表していたと思いますか】

〈質問番号(小-36, 中-38)〉



【小学校：5年生までの授業 中学校：1，2年生のときの授業について】

「主体的な学び」…課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んだ
 「対話的な学び」…考えを発表する機会では、伝わるように工夫し発表した
 「深い学び」…話し合い活動を通じ、自分の考えを深めたり広げたりできた

- 昨年度までの授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実感する経験があると肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
- 秋田の探究型授業を意識した先生方の不断の授業改善によるところが大きく、これまでの取組が成果として表れていると思われる。今後は、「当てはまる」「そう思う」と回答する児童生徒が、更に増えるような授業づくりを目指していきたい。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善等に関して，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 家庭や地域に開かれ小・中学校の接続を意識した教育課程の編成，児童生徒の学び方，生き方等に関わる指導，教職員研修等に関しても，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導-1

※H30年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

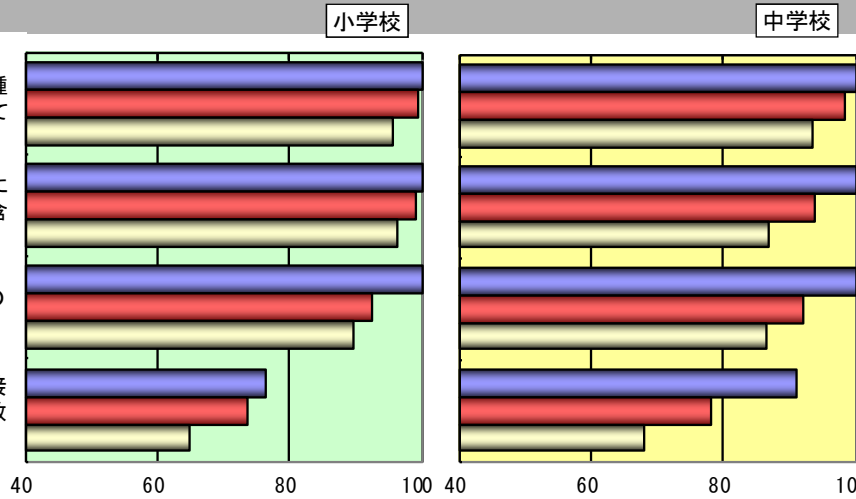
教育課程の編成

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

指導計画の作成に当たっては，教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っている

近隣等の小・中学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行った



【資料18】

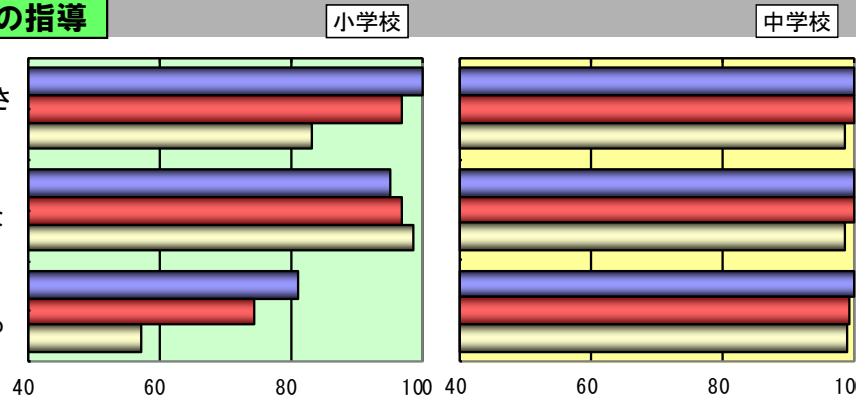
- 教育課程については，PDCAサイクルの確立，家庭や地域との情報の共有，小・中学校の接続を意識した編成など良好な状況にある。
- 「教育課程に関する共通の取組を行った」について，小学校と中学校では意識の差が見られる。内容について工夫改善を図っていきたい。

自己有用感の醸成，生き方等の指導

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校生活の中で，児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った

職場見学や職場体験活動を行っている



- 児童生徒に夢や目標をもたせ，よい点や可能性を見付けて褒めるなど，自己有用感の醸成に努めていることがうかがえる。
- 「児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する」について，小学校では本県や全国を下回っている。子どもへの支援について再確認したい。

VI 学校質問紙調査の結果

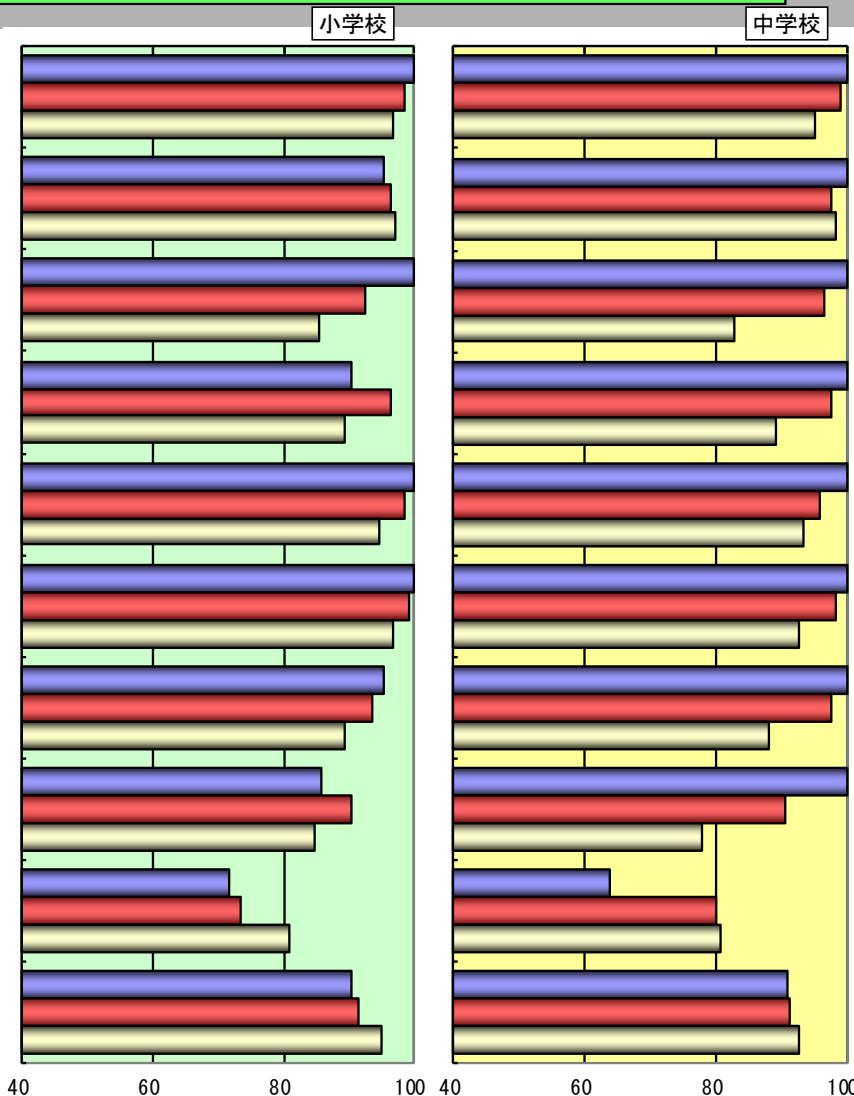
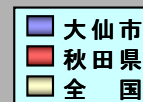
(1) 学習指導－2

※H30年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】学校質問紙調査結果より

学習指導(学習規律の定着, 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善, ICTの活用 等)

【資料19】



- 学習指導については、「学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマを与えること」「課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組ませること」において, 小・中学校で100%行われている。
- 学級会で話し合い, 合意形成を図る指導や, 道徳において自分自身の問題として考え, 話し合う指導の工夫が, 小・中学校で100%行われている。
- 地域や社会の出来事等を題材とした授業が, 特に中学校では100%行われている。
- 小学校において, 教科等で見に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたり, 総合的な学習の時間で, 探究の過程を意識した指導をしたりすることが, 本県の平均を下回っており, 今後は活用・探究を意識した授業改善が望まれる。
- 教員におけるICTの活用については, 小・中学校共に, 全国や本県の平均を下回り, 今後の工夫改善を図りたい。
- 特別支援教育についての理解, 児童生徒の特性に応じた工夫については, 本県や全国の平均を下回っており, 児童生徒の発達を踏まえた指導に向け, 研修を継続していきたい。

VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

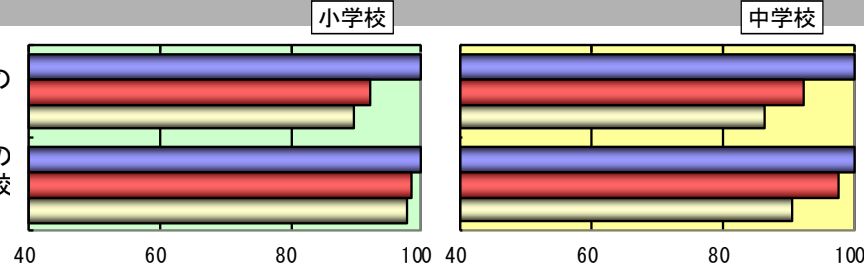
※H30年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】学校質問紙調査結果より

家庭や地域との連携

教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している



【資料20】

- 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組については、小・中学校共に100%行っている。
- 学校美化・見守り・行事等への保護者や地域の人への参加に関しては、小・中学校共に100%である。

(4) 学校の研修体制

教職員の研修等

校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている

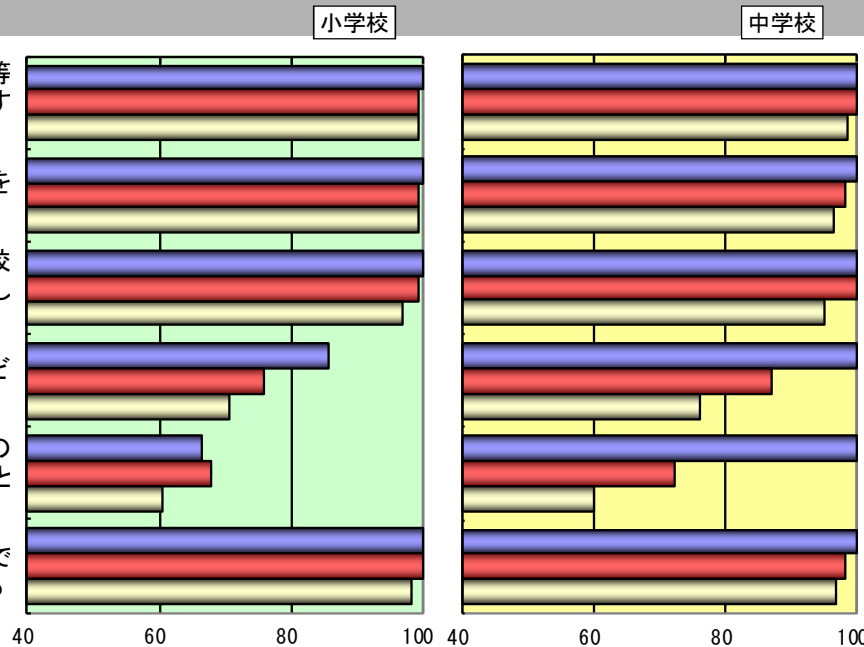
模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど合同して研修を行った

平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる



【資料21】

- 小・中学校共に校内や郊外での研修を積極的に行っている。
- 授業研究に対して小・中学校が合同で研修を行うなど連携が図られており、全国や本県の平均よりも高い状況にある。ただし、小学校と中学校では達成度に対する意識に差が見られる。内容については工夫改善が求められる。
- 学校運営については、全ての学校で、教員間で課題を共有し、組織的に取り組んでいることがうかがえる。

